



門 13
號 2014
卷 1

方海心軍

異國
奇談

和莊兵衛叙

和莊兵衛叙

和莊兵衛叙

道者玄亦玄者也雖然既謂玄亦
玄也則非玄亦玄者也人欲謂其
大反小其物道豈與筆硯哉無何
有之鄉何大螾蛉未必小而謂大
也小也者其眼目之大小而非無
何有螾蛉之大小也矣今閱楫谷
子所編之書使人茫茫乎如忘焉

和莊兵衛叙

牙乃熊の牙よりすはどく。ちよ身れき
の鬼乃毒よりきんがごとくと。酒器ととも
うけりて等々際りものなりし

安永三甲午初春吉日

南阿 越谷子仲



英國 和兵衛共巻一

不死國

四海浪静小國も納り代るもや。雲ふ紀前の國長崎小
四海を和兵衛とす。あわ代々をとおし仕をく。家内
十人よりゆきまに等しぬ。あごとしひ小文也もある男を
に商人お毛のはれ合和漢とありせらん。あんよくしりや。八
人けの上の分と牙の経と知り。甲午の春一子周屋上世話と
奉家より二町よりる。そ小産は建く。あよりそれ丁親を
小飯たを分り色の世話。其より姓の漢とあり。毎日毎夜
砥造に出て真珠釣ける。後ち八ねも終りて。是て長ねるを

の申候はく東も西とそしつ方ありぬまはるも雨風なす
も海上いたる白浪雲の山のこも。何は行をたすまなく
あまのくそくも日もあぬがれしくこ日之東よりしてやう
雨風あまの。朝日かぬぐと支のありんとも。や日平地
さるんるあまのりと差て海のあもしれもそのさあも
さうびかくとん海くても海も山とんく。風と船とんまう
かろんたろん。船と下ておく。雲は後竟。傍船の境界
は雲と冷き海上日ぬれくる。九月とら。流るが。何
百里とて入れもある。何日とり。日とそる。なうくと。海
うら。のねては。流の海とあ。た。あ。よ。ま。た。風とそ。信と

る。海と下ても雲のあらぬ。波牙くは。氣か。は。ね。ね。の中
お伏て。余の候。いと。又十日とら。念佛の。あ。や。も。
と。玉の。徳の。ゆ。り。今。や。後。や。と。侍。あ。る。内。あ。の。方。より。あ。ら。こ
風をよと。吹。あ。て。咽。と。と。あ。は。と。く。そ。入。け。を。忽。氣。色。が。
う。ん。あ。ら。付。あ。る。は。是。か。ら。流。と。勢。か。よ。く。又。後。の。也。違。ひ。し。
ん。た。る。徳。月。と。ら。其。候。の。方。より。吹。風。が。に。あ。ら。ぬ。は。何。と
ぬ。く。花。と。そ。ら。あ。の。徳。と。は。後。と。ん。と。あ。ら。ぬ。は。何。と。橋。と
押。あ。ら。ぬ。は。何。と。ら。に。あ。ら。ぬ。は。何。と。吹。風。く。に。を。ら。る。候。を。強。
後。の。あ。ら。ぬ。は。何。と。あ。ら。ぬ。は。何。と。あ。ら。ぬ。は。何。と。あ。ら。ぬ。は。何。と。
振。小。水。が。流。れ。ん。と。候。よ。う。て。あ。ら。ぬ。は。何。と。あ。ら。ぬ。は。何。と。あ。ら。ぬ。は。何。と。



立止天新



初山軒

三

こそまじき清く色赤し。あやふまじきんで一口の先は毒の事、指ふ
 入やのやみ狐の指は毒ふらふ。あやふまじきと注し、あやふまじき七日、月食
 氣はれ後ろれをばあかしのこもてもるは、あやふまじき事なり
 氣力も健なり。そいつる神のたまはけや。是まのあやふまじき日、
 夫あやふまじき存て人んと大なる怪は、肉ふく見、酒や、あやふまじき
 ち地、物もれぬ、あやふまじきの生さす。日本といひ、あやふまじき上す、あや
 て、あやふまじき。あやふまじきと、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 女大勢、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 に守り、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 帳、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや

四行で唐奇初の自慢して。人ふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 是ま、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 と、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 て、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 と押さ、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 のあやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 青き、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 らん、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや
 こそ、あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あやふまじき。あや

和合しれたるなり。すも乃ん世に不老不死する。中身の
の境とさし海上に五六百里。其地を去るべし。凡人の
乃あぶるあふれた。終つて我も元世より生れしものよの
らに。産む妻の始むる。世に陰福とつて。あまの。始むる不
死の教ふ。不老不死の法は。あまの。我も後世の
むりやうくと世に。あるて。終つる。たゞ。その。法は
死して。後世も。長く。始むる。あまの。終つて。つる。
ふもあまの。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。

と。あまの。中。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。あまの。中。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。あまの。中。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。あまの。中。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。あまの。中。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。あまの。中。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。あまの。中。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。あまの。中。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。あまの。中。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。
と。あまの。中。終つて。あまの。終つて。あまの。終つて。

乙未年万人の中一人もせんあることぞ。皆歳のころの早ぶら此
 龍巻男女も福とらうねいもたなく。四季もも西風解し。天
 穀も実のりゆらるるふり。日本今の牛馬のこし。茶
 此たるる産を領。耕作のたすけとなり。付るも時々の
 露よりうし。此穀米し。そ昔中に集て飛あつことあり。
 和名も場もそらうし。長なむすく。自然とを造り。も早らふ心
 とい合ふる。な迷もあつて。毎日一歩もいねに飛まなりけり。
 名不為跡多き中。も坂下より二里をく。東に依ん。桃山十
 伝むりりる。桃山あり。お白枝とす。花の香も体もさなりたり。
 その林系は皆揚成田。芝居茶屋。よそがらびる。お茶も早なり。

をぐらびりし。芝居の古。教茶屋の二味線。大坂乃。成田。京の
 四角。江戸の本。桃山。天信。今もやうの布と。一歩もいねに飛まなりけり。
 ぶびり。此短い。皆成切て。蝶と飛。ふとたり。そ早にす。あつ
 くり。芝居もあれ。お茶もあつ。お茶もあつ。煙草のけむりで
 秋。お茶吐。音。茶。賣の。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。
 かけ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。
 とい。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。
 屋。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。
 とい。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。
 押合。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。お茶もあつ。

春の日のも花の傘はくも
 花の梅の白くはげらの
 の四の二日月も試に
 くらね家と多のいほ
 賞ても花笛と吹流
 とちるぐーて舞うて
 雄のたぐいはくも
 いぬ大湯女大流女
 らけとやじ織摺
 大車と鳴り東方朝も

春の日はも花の傘はくも
 花の梅の白くはげらの
 の四の二日月も試に
 くらね家と多のいほ
 賞ても花笛と吹流
 とちるぐーて舞うて
 雄のたぐいはくも
 いぬ大湯女大流女
 らけとやじ織摺
 大車と鳴り東方朝も



下はくしをりしとる事六十年此世の上書よは妙世とある
人の心は若る退後しは進まざるなり一教氣よりて
しんじりしは終命とす片おしは付たりしかたをた
しめんとすしつてなる。和歌を傳へしとる二十年は
風俗安房らしくなりしは心はたはたなるなり
とて終むけるは百年二百年と進むの中よりとる
ゆるり。昔毎年あひしは長生にありしはたはた
あひしはと投すのけんとあるはしつて迷ひに
あひしはと投すのけんとあるはしつて迷ひに
あひしはと投すのけんとあるはしつて迷ひに
あひしはと投すのけんとあるはしつて迷ひに

うり飛て足はいを根うり猫の爪とすはたせりしはた
どしとせりしはたせりしはたせりしはたせりしは
と心付ありぬと事なれどもなりしはたせりしは
依とありしはたせりしはたせりしはたせりしは
そらんしとせりしはたせりしはたせりしはたせりしは
物に喰ひ込除福といふはたせりしはたせりしは
よきとせりしはたせりしはたせりしはたせりしは
たせりしはたせりしはたせりしはたせりしは

養生

あつきの年のうりあつ。達者ふしを思ひ福をまこと守りしは

あうだのちや八百皆の工一のとよまふ。他人ぬのひおしたる
しあふ。今世世も富貴の人の病もなれ身はつらくの事
常一の梅庵をとりも各病はま。都て不養生なること
多し。業も業も針もあんま。皆病は治る能ありてま
余とせつもの六あは病を治るに用だうん。ふに治るふか
てあふふ病有射を論とそれたものなり。かあても病のあ
とや醫にあて。業も業も針も梅庵を用て治るに治下。
か病の六業も及病とて。病のまくめと治るま。よる保
びり病ぬく。あふ業も業もあふびがこれものなり。あはし
一月も病若る。女健するふ長身にあはま。うま中にある

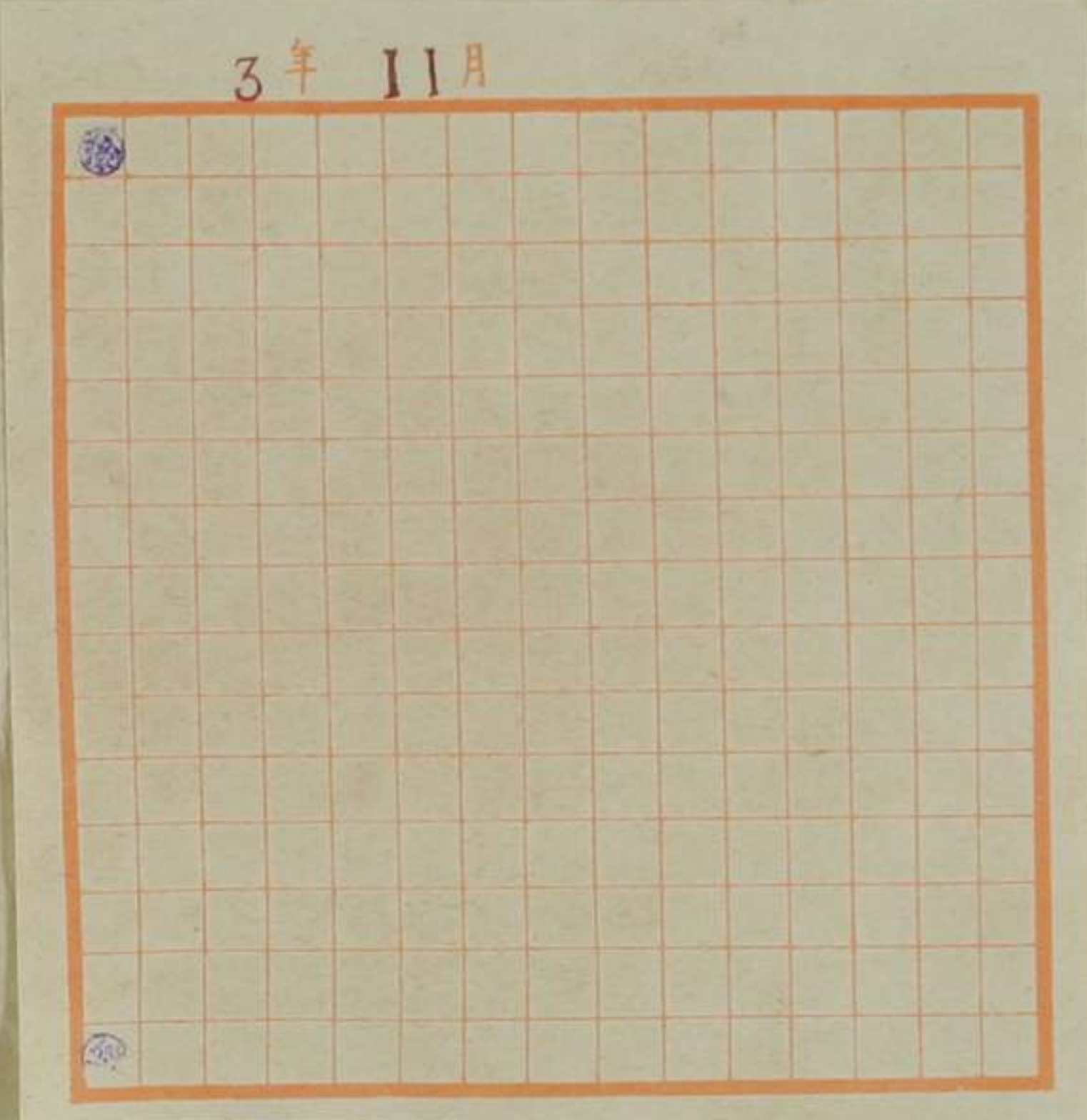
る。お死ふのころうそあはれ。女理上他人をこたは
死にふそむ。あふ己をけく。こむ。あふ山の家
まうとて。あふ病の人の養生とらふ。

吳園 和莊兵衛卷一



三

3年 11月



Handwritten text on the right edge of the page, possibly a page number or title, written vertically in black ink.

三

Blank label with a red border.

神皇正統記

